

導入事例：順天堂大学様



創立：1838年

構成：医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部

保健看護学部、国際教養学部、保健医療学部、医療科学部

健康データサイエンス学部、大学院4研究科、6附属病院

導入製品：Cabells Predatory Reports

導入年：2023年



高野 秀一様 博士（農学）

研究戦略推進センター リサーチ・アドミニストレーター

“私はURAとして研究者の研究時間確保を念頭に日々活動しています。研究者の皆さんが研究に専念できるサービスとは何かを模索しつつ、仲間のURAとともに研究費申請、学内外の情報収集・発信、困り事の相談など、幅広く支援を行っています。”

導入前の課題：

- ハゲタカジャーナルかどうかの問い合わせが増えていたが、調査に時間がかかっていた
- 疑わしい雑誌に投稿してしまったかもしれないという相談があり、未然防止策を検討していた
- 特に若手研究者や研究費の処理を行う経理担当者向けに教育の必要性を感じていた

導入の経緯・決め手：

- トライアルで評価したところ、疑わしいと判定していたジャーナルが9割方収録されていた
- 第三者が一定の分析項目に沿って評価している点、問題点が明記されている点良かった

導入後の効果：

- 調査の時間短縮となったほか、研究者・経理担当者自身も簡単に調査が可能となった
- ハゲタカジャーナルの注意喚起ツール・教育ツールとなった

高野様コメント：

研究者、研究費を扱う事務担当者からハゲタカジャーナルについての相談を受けた際、Predatory Reportsを使うと第三者が一定の分析項目に沿って評価したリストが提示され、瞬時に調査が完了するので大変役立っています。得られる安心感に対し価格はリーズナブルで、大学、研究者の信頼と評価を守る費用対効果の高いツールの一つとして活用しています。